

とやま介護テクノロジー普及・推進センターの取組内容(R6年度事業実施計画)

<運営方針>

各取組を通じて、介護サービスの質の向上や働きやすい職場環境づくりの実現、並びに介護に携わる職員が自らの仕事や職場に自信と誇りをもって働けることを目的とする

(1)生産性向上の取組等に関する相談対窓口の設置

①相談対応

- ・ 介護事業所からの生産性向上の取組等に関する相談対応
- ・ 企業からの介護ロボット等開発に関する相談対応
- ・ 一般県民からの日常生活での介護に関する相談対応

②体験展示

センター内での体験展示・外部イベントへの出展・定期的な体験展示会の実施

③試用貸出

介護ロボット等の試用を希望する介護事業所と貸出企業のマッチングの実施

④モデル施設への伴走支援

アドバイザーが介護ロボット等の導入検討施設に出向き、課題の洗い出しから介護ロボット等の選定・活用方法など一連の手法について助言を実施(3施設×1回)

⑤生産性向上の取組に関する成果報告会

伴走支援による生産性向上の取組み結果報告会を実施

⑥普及啓発・広報

HPやSNSでの情報発信、福祉とやま・VITAによる情報提供

(2)研修の実施

①介護現場における生産性向上促進シリーズ研修

a) 介護ロボット等導入シリーズ研修

介護ロボットの基礎知識・導入から選定・評価等までの一連の手法を習得する。
(30名×1回(6日間コース))

b) ICT等活用支援研修

すでに導入している福祉施設からの好事例を通して、ICT導入の基礎的なポイントを学び、今後の活用につなげる。(30名×1回)

c) 介護生産性向上取組支援セミナー

県内先進事業所等による生産性向上に関する説明会を開催

②介護ロボット等体験講座

介護現場で実際に使用する介護ロボット等を体験

a) 介護ロボット等体験講座Ⅰ：一般県民、小中高生向け(16名×10回)

b) 介護ロボット等体験講座Ⅱ：介護福祉士養成校学生、施設職員、専門職向け(16名×15回)

③介護技術実践サポート研修

介護ロボット・福祉用具等を適切に活用した介護方法を分野別に習得

a) 新任職員介護技術サポート研修(各コース30名×2回)

コース:①口腔ケア ②嚥下・食事 ③移乗 ④排泄

b) 新任職員指導者技術向上研修(各コース30名)

コース:①排泄編 ②排泄技術編

④腰痛予防推進研修

負担の少ない介護の習得、腰痛予防意識の定着及び職場環境の改善

a) 腰痛予防研修(30名×2回)

b) 腰痛予防指導者育成研修(基礎編・フォローアップ編(各40名×1回))

c) リフトリーダー研修(30名×2回)

⑤介護テクノロジー相談員養成研修

介護現場で必要な介護テクノロジー(介護ロボット・ICT・福祉用具)の選定・評価に係る知識・手法の習得により、専門人材を育成(30名×1回(9日間コース))

(3) 人材確保、生産性向上に係る各種支援業務**①介護テクノロジー補助金の活用支援**

介護テクノロジー定着支援事業における補助金の受付手続き等をセンターで実施。

併せて事業所への相談対応を行い、事業所における介護ロボットや介護ソフト等の導入・活用状況も踏まえ、適切な助言を行う。

②介護事業所の表彰

高齢者の自立支援や雇用環境の改善に積極的に取り組む県内の介護事業所等を表彰するとともに、その取組みの普及啓発を図り、介護サービスの質の向上や働きやすい職場環境づくりにつなげる。